

ミライカフェほの国2021（第8回）

目的

東三河地域を「住み続けたい町」「住んでみたい町」に変えていくため、高校生によるグループワーク、ビジネスプラン・地域づくりの取組発表を通じた意見交換会を開催してきました。今回は、コロナ対応のため、**オンラインによりビジネスプラン等のみ**の発表を行いました。

実施概要

- 日時：2021年1月30日(土) 12:55～15:05
- オンライン方式 (Zoom) による実施
- 3会場 渥美農業高校校舎／三谷水産高校校舎
豊橋市「ガクラボ」(豊橋市富本町国隠67)
- 参加校：渥美農業(6名)、三谷水産(5名) 先生3名
- コーディネーター (株)うちうら 代表取締役 内浦有美さん
- 協力機関 豊橋市／東三河総局 (産業労働課 田中さん)
- リモート参加 2名
- 事務局 加藤、坂田、鵜飼

主な内容

1. 生徒の皆さんの自己紹介と今関心のあること・流行っていること
2. 渥美農業高校、三谷水産高校の皆さんによる発表、質疑応答
3. 参加された先生の感想



ビジネスプラン・地域づくりの取り組み発表

1. 愛知県立渥美農業高校 「ここから始めるSDGs～GLOBAL G.A.P取得への挑戦～」
2. 愛知県立渥美農業高校 「みかわ牛と私達」
3. 愛知県立三谷水産高校 「私たちが考えた未利用資源を活用した商品開発」



主な質疑応答内容

愛知県立渥美農業高校 「ここから始めるSDGs～GLOBAL G.A.P取得への挑戦～」

【質疑1】 ・今回の取組を進めてきた中で、大変であったことは何ですか？

【回答1】 ・花の認証では、模擬審査が結構、注意され、それを改善していくのが大変であった。例えば、農薬がかかってはいけない場所に農薬が置いてあった、ここにあってはいけないものがここにあって、どこにものを置いたら良いかを考えること等。

【質疑2】 ・GAP取得の取組を通して農業に対する考え方が変わりましたか？

【回答2】 ・GAPの活動に参加し、GAPは大変で苦勞したが、農業に対してやりがいを感じ、農業も楽しいと思った。

【質疑3】 ・花のGAP認証を取るとどのような利点がありますか？

【回答3】 ・GAPを取ると、商品にGAPを認証が付けられる。例えば、東京オリンピックで出される野菜はGAPを取得しないと出せない。オリンピックに飾られる花は今のところ関係ない。

【質疑4】 ・地域の会社の方との交流で感じたことはありますか？

【回答4】 ・わからないことが多かったが、それを教えてもらった。GAPの審査までにできていない項目では専門的なものが多く、そのアドバイスをいただいた。

【質疑5】 ・花のGAPを取る意味があるのですか。需要があるのですか？

【回答5】 ・海外には需要がある。学校では、この活動を広げていきたいと考えている。花のGAPは全国どこも行われていない。

【質疑6】 ・花のGAP認証は現在どのような状況ですか？

【回答6】 ・この2月に結果がでます。

【質疑7】 ・花の農家さんの反応はどうですか？

【回答7】 ・注目されていると思います。

【質疑8】 ・何故農作物に、飲料水（スポーツドリンクも含む）が触れてはいけないのですか？

【回答8】 ・ミニトマトは、そのまま消費者が食べています。飲料水がかかることで、細菌が増殖し、消費者に悪い影響が出ては行けない。このため、飲料水は、野菜から離れた場所で飲むようにします。

【質疑9】 ・エディブルフラワーは野菜、花どちらですか？

【回答9】 ・食べられるので野菜です。

【質疑10】 ・GAPの取得に関して農家の方と話されましたか。農家の方の反応はどうでしたか？

【回答10】 ・コロナの関係で、今年度は直接農家の方と関わったことはありません。

愛知県立渥美農業高校 「みかわ牛と私達」

- 【質疑1】 来年度、肉を販売されると言われていたが、どこで販売するのですか？
- 【回答1】 学校の農高祭や道の駅（めっくんはうす）で販売する予定。和牛甲子園の終わった後に、販売実習をするのですが、明日、岡崎市のスーパーで行います。2頭分の牛で、A5ランクのものを売ります。
- 【質疑2】 他の牛と比べて、みかわ牛との違いは何ですか？
- 【回答2】 指しが綺麗に入っており、食感はとろけるようです。ビタミンAの管理はうまくいったためです。
- 【質疑3】 一番楽しかったことは何ですか？
- 【回答3】 出荷する牛が小さい時からみているので、成長過程、肉が付いてくるのが楽しい。
- 【質疑4】 「銀のさじ」の愛読者ですが、飼育が喜びに感じる時は何時ですか？
- 【回答4】 かわいがり、愛情も込めるけど、別れにくくなるようなことに対しては一線を引いていました。
- 【質疑5】 みかわ牛の認定農場の基準はあるのですか？
- 【回答5】 みかわ牛を生産している農場が認定農場で、本校ではこれまで肥育もしてこなかったもので、認定農場ではありません。
- 【質疑6】 子牛、肥育をしていないと認定農場になれないのですか？
- 【回答6】 継続的に肥育して、出荷していないと認定農業になれない。今回は、協議会から特例で認定農場になれた。
- 【質疑7】 牛には色々なブイがあり、串にする場合も味が違う。どこのブイを利用してつくられたのですか？
- 【回答7】 ロースなど色々なブイを利用してつくっている。色々なブイを利用することで味を楽しんでもらいたい。
- 【質疑8】 色々なブイを利用する場合、串に刺す肉の形は、全て同じにするのですか？
- 【回答8】 試作段階であるので、その点はまだ行っていません。
- 【質疑9】 和牛の肉は、切ってからどの程度保存できるのですか？
- 【回答9】 私たちは生産して出荷するまでで、肉になってからはわからない。
- 【質疑10】 肉は、切った時が美味しいのか、時間が経った方が美味しいのですか？
- 【回答10】 肉には熟成の期間があります。動物によって熟成の期間があり、鳥肉、豚肉、牛肉では牛肉（2週間くらい）が一番長い。肉が軟らかくなり、美味しくなる。
- 【質疑10】 熟成はわかりますが、販売してからどの程度もつのか？ 時間が経てば酸化もします。
- 【意見10】 一消費者意見です。スーパーの店頭では賞味期限は4～5日程度ですね。
- 【質疑11】 学校としてでなく、実際に育てた人にとって何が利益（経験）になりましたか？
- 【回答11】 牛を育てたことが大きな利益（経験）になりました。
- 【質疑12】 肥育は毎日行っているのですか。大変ですか？
- 【回答12】 毎日行っています。大変ですが、牛が好きなので、余り大変とは思っていません。土日、正月は休んでいます。
- 【質疑13】 田原牛、あつみ牛もある中で、何故、みかわ牛を選んだのですか？
- 【回答13】 田原牛、あつみ牛は、交雑種（乳牛と和牛のハーフ）で、みかわ牛（和牛と和牛）は完全な和牛なのでそれを選んだ。
- 【質疑14】 鳳来牛はどうですか？
- 【回答14】 和牛ブランドです。
- 【質疑15】 3等級から4等級に上がったと言われましたが、どんな違いがあるのですか？
- 【回答15】 Aには1～5があり、その違いは指しの量の違いです。ブランド力が多少上がったということです。
- 【質疑16】 出荷される肉量のA5ランクはどの程度の量があるのですか？
- 【回答16】 正確な数字はわからないが、最近ではA5ランクの割合が高くなっています。

愛知県立三谷水産高校 「私たちが考えた未利用資源を活用した商品開発」

- 【質疑1】・愛知丸ごはんという商品をはじめて聞いた。イベントで販売されていると言われていましたが、スーパーなどでは売っていないのですか？
- 【回答1】・イベント以外でもスーパーでも販売されています。蒲郡市内のスーパー、豊橋市内のスーパーでも売っています。
- 【意見1】・色々なスーパーで売られています。
- 【意見2】・道の駅「めっくんはうす」で売っているようです。
- 【質疑2】・アカニシガイに着目した理由は何ですか？
- 【回答2】・自分がアカニシガイが好きで、有名な回転寿司にいても余りおいていない。とても美味しい貝などで是非広げようと思いました。普段、コンビニでパックで置いてあることがあります。
- 【質疑3】・愛知丸のフェスティバルにいったことがないが、どのようなものですか？
- 【回答3】・愛知丸のイベントではなく、ラグーナにフェスティバルマーケットという場所があり、そこで販売されています。
- 【質疑4】・貝類は味や食感が記憶に残るものとそうでないものがある中で、アカニシガイの味や、食感を知ってもらう、おいしさを知ってもらうにはどうしたらよいと思いますか？
- 【回答4】・自分は分厚めに切って刺身にして食べます。食感もわかる。貝の中では若干甘めである。
- 【意見4】・刺身や寿司ネタがよいかも。
- 【意見4】・食感がコリコリしていて、甘めがある。臭いも強くなく、ショウガがなくても食べられる。
- 【質疑5】・メヒカリの魚醤、海老の魚醤と今回の魚醤の違いは何ですか？
- 【回答5】・海老の魚醤は海老の香りを出したい時に使って欲しい。ニギスの魚醤は使われていなかった部分を使いたいと考えた。魚と出汁と海老の出汁の違いがある。
- 【意見5】・メヒカリの魚醤は3年前。魚醤シリーズを出したら面白そう。
- 【質疑6】・ニギスの頭と内臓は何か利用していますか？
- 【回答6】・これを魚醤にしています。
- 【意見6】・全て利用しているのですね。
- 【質疑7】・アカニシガイはどの時期によく獲れるのですか？
- 【回答7】・旬は春から7月くらいによく獲れる。期間限定の商品になるかなと思います。
- 【質疑8】・分解促進剤とは何ですか？
- 【回答8】・酵母等の糖類です。魚醤の製造を短縮させるために、沢山の分解促進剤を利用しています。
- 【質疑9】・農業と漁業は違う。一番楽しいと思うことは何ですか？
- 【回答9】・調理実習の時間があり、お菓子などをつくっている。製造部ではイベントなどに参加することも楽しい。
- 【回答9】・学校の包丁が切れないことが大変。
- 【回答9】・調理師になりたくて入学したが、色々なものができる。最初はコロナで実習はなかったのですが、最近はよく教えてもらっています。

高校生がビジネスプランなど披露

オンラインで開催 「ミライカフェほの国」きょうまで参加者募集

東三河地域研究センターは30日、高校生がビジネスプランなどを披露する「ミライカフェほの国2021」をオンラインで開催する。参加者を29日午後3時までに募集している。東三河を「住みたい町、住んでみたい町」にするための取り組みなどを発表する。

表し意見を交わす場として、年1回開き、今年で8回目。新型コロナウイルスの感染拡大防止のためビデオ会議システム「Zoom」を活用する。

取得への挑戦(午後1時20分~45分)と「みかわ牛と私たち」(1時45分~2時10分)、三谷水産高は「私たちが考えた未利用資源を活用した商品開発」(午後2時20分~45分)のテーマで、それぞれ発表する。豊橋工業高

は意見交換に参加する。参加希望者は所属と氏名を明記し、Eメール(webmaster@hrrc.jp)で申し込む。問い合わせは、同センター(電話0532-6647)へ。

あすミライ カフェほの国

オンラインで東三河地域研究センター

東三河地域研究センターは30日午後0時55分から、オンラインで「ミライカフェほの国2021」を開く。県立渥美農業高校、三谷水産高校、豊橋工業高校の生徒が、住みたい町、住んでみたい町にするための取り組みなどを発表する。

オンライン会議システム「Zoom」を利用する。聴講希望者は、件名に「ミライカフェほの国2021参加の件」、内容に所属と名前を書いて、29日午後3時までにメール(webmaster@hrrc.jp)で問い合わせは東三河地域研究センター(0532-21-6647)へ。【竹下貴信】

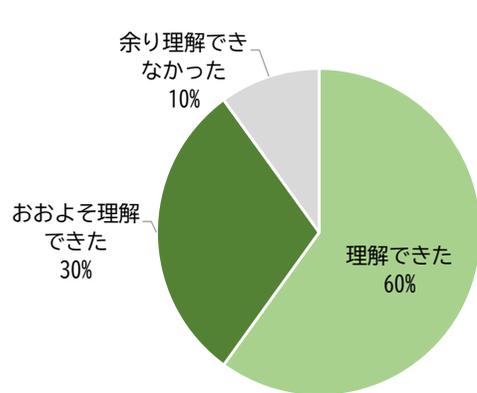
アンケート結果 1

◆回収数 10人 (男5人、女5人)

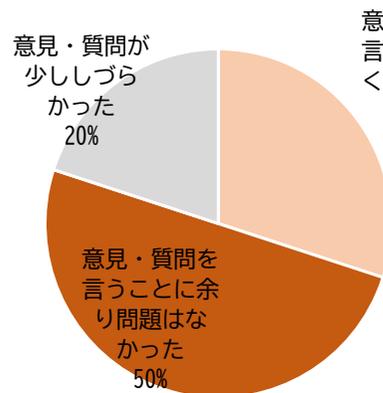
◆居住地 豊橋市2人、豊川市1人、田原市5人、東三河以外2人

【設問1】 はじめてリモート形式で実施しましたが、どのように思いましたか。

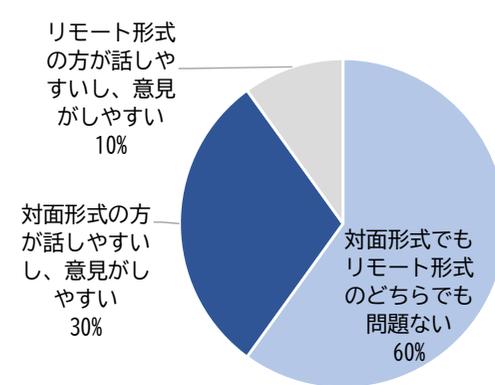
・9割の生徒は発表内容を理解し、意見・質問を行うことに対して問題なし(8割)と回答しており、6割は対面形式でもリモート形式のどちらでも問題ないと回答しており、リモート方式による参加者への影響はほとんどないと言えます。



【発表内容について】



【質問・意見について】



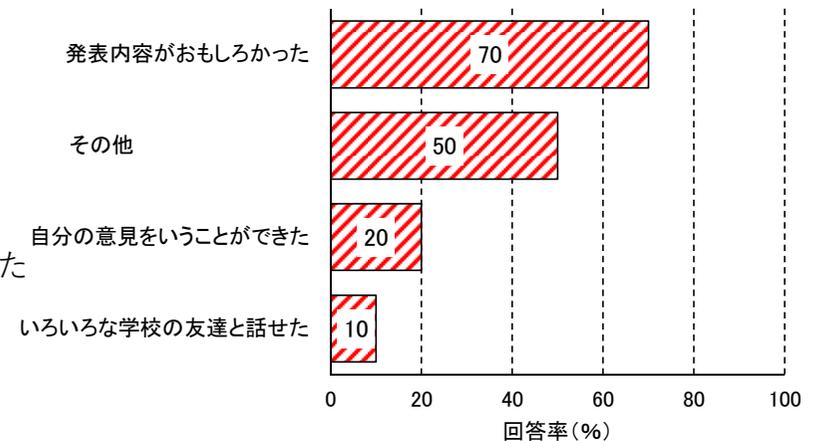
【リモート方法について】

【設問2】 今日、参加して良かったことは何ですか。

・「発表内容がおもしろかった」(70%)が最も高く、「その他」では、以下の回答がありました。

- ・農業以外の話を聞いた
- ・他校の意見が聞いた
- ・他校の発表を聞き、こんな発表の仕方があるとか聞いて良かった
- ・リモート発表をはじめたのでいい勉強になった
- ・愛知丸という商品が知らなかったなので、とても興味をもてた。今後食べてみたいと思った

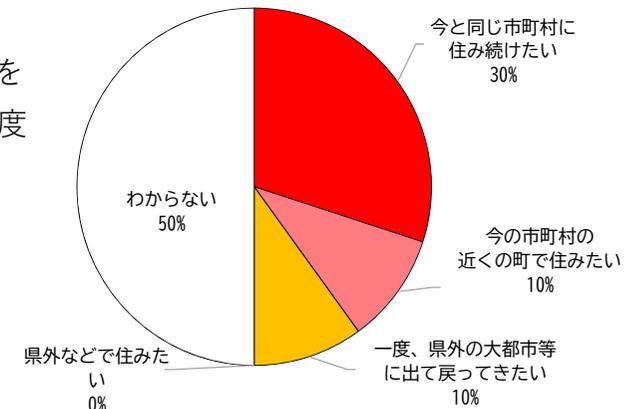
・参加者の関心を惹いた発表内容であったと思われます。



アンケート結果2

【設問3】今住んでいる場所に住み続けたいと思いますか。

- ・半数は「わからない」との回答でしたが、今と同じ市町村や近くの町で住みたいは4割を占めています。昨年度の結果（今と同じ市町村や近くの町で住みたい「42%」）と同程度の回答割合です。



【設問4】25年後の東三河（住んでいる市町村）はどんな町になっていて欲しいと思いますか。

- ①地域への誇り
 - ・ **ここで育って良かったなって思える町。**（渥美農業）
 - ・ **みんなに自慢できる町**になって欲しい。**どの町にも負けない素敵な町に。**（渥美農業）
 - ②魅力的で住みやすい街
 - ・ まんべんなく人が住んで**いろいろなところに行きたいって思える場所がある町**（渥美農業）
 - ・ 今よりも地元の人たちが住みやすくなるような町にしていきたい。（渥美農業）
 - ・ **地域の方達ともたくさん話せるような町**になってほしい。（三谷水産）
 - ・ インターネットが普及していてお店も今よりたくさんある**過ごしやすい町**になって欲しい。（渥美農業）
 - ・ シャッターを少なくしたい。安くて品数が多いスーパーがほしい。（三谷水産）
 - ③農業漁業振興
 - ・ **GAPをもって広めて有名な町**にしていきたい。（渥美農業）
 - ・ 農業をやる人の高齢化が進んでいるので、**農業をやる人がさらに増えて**今の特産の野菜等も替わらず食べられる状態にして欲しい。そのために将来の農業の食に就くのも面白そうだと思った。（渥美農業）
 - ・ 農業は変わらず栄えていて欲しい。（渥美農業）
 - ・ 自然を活かし、より豊かな町のため、農畜産業の発展や、漁業生産の安定や増進に力を入れ、**農具や漁具の開発・発展、農畜産物や水産物の良い所のPR、未利用資源の利用方法を考えて**いってほしい。（三谷水産）
 - ④環境保全
 - ・ **海がもうちょいきれいになって**欲しい。（三谷水産）
 - ・ **ゴミなどが無くなって**みんなが暮らしやすい町になってほしい。（三谷水産）
 - ⑤その他
 - ・ これ以上人口が減らないで欲しい。**人との距離が近い地域のままだいい。**（渥美農業）
 - ・ 自転車じゃないと行きにくい場所が多いから、交通網が発達してほしい。（三谷水産）
- ※先生からの意見
- ・ 変わらず農業が盛んな地域であって欲しい。
 - ・ 地域コミュニティが維持されており、ある程度人口減少が止まっている。

これまでの実施概要

- 第1回 ミライカフェほの国2014 主催：東三河県庁 /事業受託：東三河地域研究センター
場所：愛知県立豊橋工業高等学校会議室 /日時：2014年2月8日
参加者(14名)、参加校(3)：渥美農業、豊橋工業、豊橋商業
- 第2回 ミライカフェほの国2015 主催：東三河県庁 /事業受託：東三河地域研究センター
場所：名豊ビル8階ホールD（豊橋市駅前大通2-48） /日時：2014年12月13日
参加者(21名)、参加校(5)：渥美農業、新城東高校作手校舎、豊川工業、豊橋工業、豊橋商業
- 第3回 ミライカフェほの国2016 主催：東三河地域研究センター・東三河県庁
※「愛・地球博開催地域社会貢献活動基金の助成金」等利用
場所：名豊ビル8階ホールC・D（豊橋市駅前大通2-48） /日時：2016年2月13日
参加者(27名)、参加校(5)：渥美農業、田口、豊川工業、豊橋工業、豊橋商業
- 第4回 ミライカフェほの国2017 主催：東三河地域研究センター・東三河県庁
場所：名豊ビル8階ホールC・D（豊橋市駅前大通2-48） /日時：2017年1月21日
参加者(20名)、参加校(5)：渥美農業、豊川工業、豊橋工業、豊橋商業、三谷水産（ビジネスプランの発表とブラッシュアップ）
- 第5回 ミライカフェほの国2018 主催：東三河地域研究センター・東三河県庁
場所：開発ビル6階601(豊橋市駅前大通2-33-1) /日時：2018年2月3日
参加者(22名)、参加校(5)：渥美農業、桜丘、豊橋工業、豊橋商業、三谷水産
- 第6回 ミライカフェほの国2019 主催：東三河地域研究センター・東三河県庁
場所：開発ビル6階601(豊橋市駅前大通2-33-1) /日時：2019年2月2日
参加者(24名)、参加校(5)：渥美農業、桜丘、豊橋工業、福江、三谷水産
- 第7回 ミライカフェほの国2020 主催：東三河地域研究センター・東三河県庁
場所：MUSASHI Innovation LAB CLUE（豊橋市駅前大通1-135） /日時：2020年2月1日
参加者(25名)、参加校(5)：渥美農業、桜丘、豊橋工業、福江、三谷水産
- 第8回 ミライカフェほの国2021 主催：東三河地域研究センター
※オンライン（Zoom）によるビジネス発表（事務局は豊橋市「ガクラボ」豊橋市富本町国隠67） /日時：2021年1月30日
参加者(11名)、参加校(2)：渥美農業、三谷水産

これまでのプレゼンテーション

○第1回 3校3件

- ・豊橋工業 「風で飛ばされない紙皿：エアロデッシュ」
- ・豊橋商業 「農業と市電で活性化」
- ・渥美農業 「お茶の可能性を探る～四番茶利用への挑戦～」

○第2回 2校2件

- ・豊橋商業 「ほっとし茶お」(抹茶と鶏卵を使った缶パン)
- ・渥美農業 「4番茶を使った茶パンの商品化」

○第3回 3校4件

- ・渥美農業 「耕作放棄地予防プロジェクト～地域資源の活用～」・「未利用資源の活用～四番茶利用への挑戦～」
- ・田 口 「間伐材の有効利用～木材燃料「アツマル」の開発と普及～」
- ・豊橋商業 「愛知県530市！？～豊橋の現実を変えていこう！～」

○第4回 3校4件

- ・渥美農業 「農高交流プロジェクト～国境を結ぶ輪～」・「白いカレーの開発」
- ・三谷水産 「カガミガイを用いた魚醤の作成」
- ・豊橋商業 「拾ってみりん拾うとわかるゴミゼロの効果」

○第5回 3校3件

- ・渥美農業 「カラーゲンたっぷりの白いカレー」
- ・三谷水産 「深輝（シンキ）あら！？メヒカリさん」
- ・桜 丘 「地域の自然の魅力発信！」

○第6回 3校4件

- ・渥美農業 「未利用資源の活用～白いカレー商品化への道～」・「高校生が挑戦！豚肉の肉質向上計画！」
- ・三谷水産 「三河湾体験型ツアーの企画」
- ・桜 丘 「朝倉川・身近な自然環境を考える」

○第7回 4校4件

- ・渥美農業 「地域の方々と歩む酒粕黒豚プロジェクトと養豚経営再建」
- ・福 江 「観光ビジネスコース活動報告」
- ・三谷水産 「PH LABを通じて学んだこと」
- ・桜 丘 「石巻山のカタツムリ調査と保護活動」

○第8回 2校3件

- ・渥美農業 「ここから始めるSDGs～GLOBAL G.A.P取得への挑戦～」・「みかわ牛と私達」
- ・三谷水産 「私たちが考えた未利用資源を活用した商品開発」